

いじめの後遺症

今からお話をするのはいじめについてです。三中でも、残念ながら時々いじめについてみんなどいじめなければならぬ場面や、先生が指導をしていることがあります。皆さんはいじめについてどのように思っていますか。

ある日、いじめについての大人対象の学習会で、一人の中年の男の人がこんな話をしました。

「私は中学校の時に、友達三人で一人の男の子をいじめたことがあります。あれから三十数年になります。

それがひどいもので、殴ったり蹴ったり、叩いたり川に落とし込んだりしました。今の陰湿ないじめとあまり変わりません。その生徒は、おとなしかったので、皆からいやなことを言われても黙っていました。毎日のように三人でいじめたことを思い出し、悔やみます。

その中学校の同窓会を今も続けてやっているの

ですが、私たちがいじめていた人は全く出席しないのです。気になって、心配になって仕方がないので、当時いじめていた友達と『あの時のいじめが原因で来ないのではなにか』と相談して誘ったのです。もちろん、あまりもしました。しかしながらわたしたち三人の話は全く聞こうともせず『話すことはないから...』と言われます。あの時のいじめを、今も深く反省しています。」

と涙ながらに話しました。つい先日、ある雑誌の『いじめリポート』を読んでいたら、千八百通も人の心の叫びが載っていました。その中の二十四歳・会社員F子さんの投書です。

「私は、小・中・高校とずっといじめられました。小学生のときは、持ち物を壊されたり、黒板消しを頭の上に落とされたり。いじめをしていた人たちの言葉を借りれば、他愛

ない(それだけでも私は充分傷ついていたのです)が、いじめです。しかし、中学生になると、それに男の子による暴力的ないじめが加わりました。廊下を歩いてみると、すれ違いざまに足げりです。教室内で、女の子だというのに、プロレス技をかけるられたことも一度や二度ではありません。私の制服の背中はいつも真っ白に汚れていました。高校生になると、専ら精神的ないじめでした。教室に入ったとたん『来たよ！』『ゲー』。授業中に先生に当てられて教科書を読むと『ハハハ』と大声で笑われ、質問をすれば『ハア』とため息をつかれます。クラスの男女全員が示し合わせたように同じ行動をとるんです。

今、私は二十四歳になりました。さすがにいじめられることはありません。でも、戦場からの帰還兵が後々まで後遺症に悩まされているように、私もいじめの後遺症に苦しめられています。『ハハハ』という笑い声を耳にした時

来週の予定:1月18日(月)~22(金)

※ 1月22日(金) 書き初め大会
→ ジャージ登校

日	曜	行事
18	月	普通時程 時間割通り 1校時:学活
19	火	特別時程 時間割通り 1校時:道徳
20	水	普通時程 時間割通り 清掃有り
21	木	普通時程 時間割通り
22	金	普通時程 時間割通り 5・6校時:書き初め大会 ※ 毛筆用具一式、半紙、新聞紙I日分を持って体育館へ ※ ジャージ登校

に浴びせられたのと同じ単語を聞くだけでも、体がすくみ、足が震えて、ついにはしゃべれなくなってしまう。そういう悪口を夢に見るほどいわれていたんです。また、男性が向こうから集団で来ようものなら、私は真っ青になって立ちすくんでしまいます。どうして

も『いじめられる』という恐怖心が拭えない。う恐ろしく、私の首と鼻は曲がったままです。いうまでもなく、目に見えるいじめの後遺症です。」

そうになるほどの、心か

らの叫びです。F子さんの辛い気持ちや悩みがわかりますか。

はじめの中年の男の人やこの会社員のF子さんのことは、私たちにいろんなことを語っていると

思います。私たちが回りにこのようないじめで苦しんでいる友だちはいませんか。時々目にする耳にする、マスクミが一斉に、それこそ興味本位のように作り上げたブームとしてではなく、もう一度みんなで真剣に考えてみようじやありませんか。